

会議録

会議の名称	西東京市図書館協議会 平成26年度第2回定例会
開催日時	平成26年7月17日（木曜日）午後3時から5時まで
開催場所	田無公民館3階会議室
出席者	委員：小西委員、鈴木委員、山田委員、山本委員、倉内委員、川口委員、小此木委員 事務局：奈良館長、中村副館長、中村副主幹、吉野庶務係長
傍聴者	2名
議題	1 諸報告 2 西東京市図書館基本計画・展望計画について 3 その他
会議資料の名称	資料1 西東京市図書館基本計画・展望計画（計画期間：平成21年度～平成30年度）施策事業一覧 資料2 西東京市図書館 利用者アンケート自由意見 資料3 平成25年度西東京市図書館事業概要 資料4 西東京市図書館だより 第54号
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>会長： 定刻になりましたので、図書館協議会第2回定例会を始めさせていただきます。最初に館長から諸報告をお願いいたします。</p> <p>館長： 本日、3点について報告させていただきたいと思います。一つは、毎年作成している図書館事業概要ができ上がりました。簡単に説明させていただきます。9頁蔵書ですが、合計78万7,037冊になります。図書の除籍は3万3,299冊になります。市民一人当たりの蔵書冊数は4冊で、登録率は19.8パーセントとなります。登録率は初めて20パーセントを割ってしまいました。原因はこれからの分析となります。一日平均貸出冊数は8,048冊で、蔵書回転率は2.6回、市民一人当たりの貸出数は11.2冊、登録者一人当たりの貸出数は42.9冊となります。</p> <p>次に図書館費の推移ですが、図書館費（図書館の当初予算）が5億8,500万で、資料費が6,780万円、図書費が5,660万円、購入冊数が3万3,692冊、市民一人当りが286円となります。</p> <p>次に貸出件数ですが、221万2,808冊で、昨年より約23万7,000冊減少しています。</p>	

この原因は、ひばりが丘図書館の空調機の入れ替えとシステムの入替えで休館したこと、また、南大泉図書館が閉館していたのが開館したことも理由の一つだと思います。

次に貸出方法別利用実績です。中央、保谷駅前、柳沢、ひばりが丘の4館には予約棚システムと自動貸出機があります。これらの館では利用者の93パーセントが貸出機を使っていただいています。予約棚システム未導入の芝久保、谷戸では60パーセントとなっています。予約についてですが、69万3,362件となっていますが、ほとんどが館内OPACやWebOPAC等で利用者自身が予約されます。

会長：

未所蔵予約の2万4,840件というのは、すべて購入にまわるということではなく、他から借りたりする件数も含まれていますね。

副館長：

そうです。未所蔵予約というのは、ネット上から無い本を予約するものです。所有していないものについては、購入や相互貸借しますが、お断りすることもあります。

館長：

相互貸借で、1万冊ほど他から借りています。

会長：

約1万冊程度が購入ということになるわけです。

委員：

月曜日は図書館の休館日ですが、カウンター予約があるというのはどういうことでしょうか。

館長：

月曜日が祝日だと開館するからです。

会長：

貸出数等の減少は、休館日が増えたことや、ひばりが丘図書館等の休館によること大きな原因だと思います。それらが原因だとすると、数字的には昨年と比較し同じくらいではないでしょうか。

館長：

一番の問題は、19.8パーセントという登録率の減少です。

会長：

登録率が5人に1人だといわれると、少しさびしいなと思います。西東京市のような都市型の市でこの数字はどうか、登録率を上げていくためにはどうしたらよいか、今後、協議会で考えていきたいと思っています。

- 委員：
世代別登録者数でいうと、どの世代が減ったのでしょうか。
- 委員：
平成25年度西東京市図書館事業概要の13頁に世代別登録者数が記載されています。
- 委員：
登録者数が一番多いのは40歳台です。
- 館長：
多いのは、30歳代から50歳代です。インターネット予約ができるようになり、夜の8時まで開館するようになって、本当に利用が増えました。
- 会長：
利用者の40歳代が一番多いというのは、今まであまり考えられなかったです。
- 館長：
合併前は考えられませんでした。ご意見を参考に今後、分析ができればと思います。
- 館長：
市民アンケートにあった自由意見欄についてまとめましたので、報告させていただきます。市民回答222件、市民以外の回答60件、合計で回答282件のご意見をいただきました。年代別として40歳代が58件（26パーセント）、60歳代が46件（21パーセント）、50歳代が37件（17パーセント）、30歳代が36件（16パーセント）となっております。
- 市民回答者の意見は4つのカテゴリーに分類しました。（1）施設、設備等について「56件」（2）新刊等資料について「44件」（3）予約棚、検索機などのシステムについて「41件」（4）休館日・開館時間について「38件」の順位となっておりますが、市民以外の順位は逆になっています。アンケート結果については、図書館ホームページで公開します。
- 館長：
市で行っている公共施設の見直しの中で、新町分室を東伏見プラザ化する予定があります。具体的な内容の検討はこれからです。
- 副館長：
児童館と一緒に月一回の「おはなし会」は、今後も図書館の職員が行って継続していく予定です。
- 館長：
今後、新町分室を東伏見プラザ化する予定についての説明会を開く予定です。以上が報告となります。

会長：

それでは、「西東京市図書館基本計画・展望計画」についてですが、今までに2回ご意見をいただいております。今回はそれぞれの委員から、特段、この項目について、こういうコメントを付けたいということを描き指していただき、評価についても、ご意見がありましたらお聞かせいただきたい。その後、原案を会長、副会長で作成し、最終的に8月中にはまとめたいと思います。資料計画について、お気づきの点はありますか。

○委員：

3の視聴覚資料についてですが、市販の映像資料が、現在、名画(映画)であっても廃版になるものが多いので、簡単ではないと思いますが、収集の基準等を定めて収集を行っていただきたいという思いがあります。

○会長：

コメントとしては、市販資料についての今後の計画です。図書館は遡及的な、つまり古くなってしまったものを保管しておくのは図書館の役割です。映像資料だけ市販資料を置かないというのは通用しなくなってきている時代だと思います。ただし、それが難しいのもわかっていますし、貸出をどのようにするのかということもあります。

○委員：

5児童・青少年図書資料ですが、大型絵本の購入についてご検討いただきたいと思っています。

○会長：

児童書と、絵本の分野は、古くなった本と同じものに置き換えていくというのは重要だといわれています。

○館長：

買い替え資料については、その割合について、25パーセントを継続していくことを目標にしていますし、実際20パーセント程度は購入していますので、状態を見ながらということになります。

○副館長：

西東京市の図書館では、大型絵本等については表に出していますので、他市や他区の利用が大変に多いです。館内の閲覧や、読み聞かせのサークルや保護者の利用が多いので、積極的に買い替えを進めていきたいと思っています。

委員：

紙芝居ですが、西東京市の図書館全体で定期購入していただいているのですが、定期購入の作品の質が落ちてきているので、復刻の紙芝居にも目を向けてほしいと思います。

○館長：

検討していきます。

○委員：

外国語の絵本についてですが、西東京市には67の国の方が来ています。絵本で自分の国の言葉を読み続けていくことは必要だと思います。

○会長：

難民キャンプに図書館を作った話等をみていると、ボランティアが現地語の絵本が無いので、英語の本を持ってくると使われない。そこで、そこに現地語のテロップを貼り付けるということをしたところ、読まれるようになったということです。相当な効果があると思います。

○会長：

テロップを貼るのでしたら、日本の良い絵本は数多くあります。

館長：

学校では外国からの方には、教科書はどのようにされているのでしょうか。

○委員： 学校では、その生徒のレベルによって違ってきますが、日本に長くいて、日本語の日常会話が普通にできる生徒は、普通の学級の中で授業を受けていますし、また、日本に来て間がないというときには、日本語指導教室がありますから、週に1回とか通います。今はNPO等に委託になっています。教科書を用意するということはありません。

会長：

地域・行政資料についてはご意見有りませんか。

古い資料等を寄贈してくれるとかの話はありませんでしょうか。

○館長：

最近では、クリストロア幼稚園が閉園し大量の写真をいただきました。

○会長：

-2サービス計画について、ご意見等はありませんでしょうか。

○委員：

子育て世代、ビジネスパーソン、高齢者世代、青年層、主婦層、外国人を対象とした新しいサービスについて検討していただきたいのを入れていただきたいと思いました。

○会長：

高齢者が求めている本のニーズの把握をきちんとやるべきだと思います。

委員：

児童サービスで、館によって参加人数の増減にバラつきが出ています。自分が関わっているおはなし会については、設定した児童年齢対象より下のお子さんとその母親の参加が多いです。

○館長：

保育園や幼稚園にポスターを貼っていただくなど地道に増やしていく方法はあると思います。

○委員：

児童館とのタイアップはどのようになっていますでしょうか。

○館長：

児童館とのタイアップは、それほど積極的には行っていません。

○会長：

「児童担当者間での連携」のような文言をいれても良いかと思います。ただ、その方法等については図書館で検討していただくことになります。

○委員：

おはなし会ボランティアを養成していくだけではなく、おはなし会をどのように行っていくかということが浸透するような働きかけをする必要があります。

会長：

ボランティアが独り立ちして色々なことを行うことは良いのですが、その前に図書館がおはなし会をどう組織化していくのかということがあるべきで、そこがしっかりしていないといけないと思います。ボランティアの中で意見の齟齬が出たときやボランティア間で力量の差が生じたときに、図書館側が仕切るという必要があるのではないのでしょうか。

○館長：

ボランティアについては、ハンディキャップサービスでは、毎年、ボランティアと職員が参加し総会を行い、また、講座には職員も受講し関わるようにしています。おはなし会ボランティアについても分かる形にしていきます。

○会長：

ボランティア同士が交流できるように、また、図書館がどのようなスタンスで事業を行っていくかということを指導していくようにしていけばよろしいかと思います。

○委員：

「4 子どもやその保護者が本とふれ合う場所を提供します。」とありますが、講座の講師の話では、幼児の頃、読み聞かせをされなかった親は、読み聞かせを楽しめ

ず、読み聞かせができないと聞いたのですが、読み聞かせの方法についてわからなくなっている親が多いのではないかと思います。読書相談等のフォローアップというようなことで枠を広げて検討していただければ良いかと思います。

会長： 図書館で、市民向けの講座を行うときに、「家庭での読み聞かせのあり方」のようなタイトルで行えばよいかと思います。

○会長：

職員組織計画、施設計画のところで何かありますでしょうか。

○委員：

意識改革の事業内容で市民の声を聴くとあり、今後の予定・課題として「今後は積極的に利用者の声を聴く機会を作ります。」とありますが、どのようになされるのでしょうか。

○館長：

投書やメールに対して、各館で共通する意見は、図書館としてこのように答えたということ、共通のファイルにして利用者に公開するなどの方法を考えています。利用者懇談会も開館30周年で行いましたが、中々、人が集まりませんでした。もっと気軽にご意見を聞ける機会を作りたいと考えています。

○委員：

「西東京市第2次基本構想・基本計画」「西東京市教育計画」には内容の骨子が書かれています。が、「西東京市生涯学習推進指針」には骨子が書かれていないので、書かれた方がよろしいかと思います。

○会長：

そうですね。ここは書けますね。

○委員：

事業概要の中に、成人サービスというのがあり、朗読会、文化講演会、全館統一展示等がありますが、今後はどのような位置付けとしてここに反映されてくるのでしょうか。

○館長：

継続して実施いたします。

会長：

今まで、2回意見を伺い、今後、協議会として評価を付けます。意見等の内容をまとめたものを、9月11日に示して、訂正、評価等を行いたいと思います。最後に、見学会の場所についてですが。

○副館長：

近くで新しい図書館ということで、三鷹市立南部図書館になります。ここでよろしければ連絡を取ってみます。

○委員：

武蔵野図書館の書庫はいかがでしょう。

○会長：

それでは、三鷹市立南部図書館と武蔵野中央図書館の書庫ということでよろしいでしょうか。

○副館長：

日程を決めていただきたいのですが。

○会長：

11月27日(木曜日)午後3時を第一候補とし、第二候補を6日(木曜日)午前10時といたします。それでは、本日の定例会を終了いたします。